

平成26年度群馬県がんの教育の取組



群馬県教育委員会健康体育課

がんの教育に関する協議会

資料2

第1回

〈協議〉

・がんの教育に関する計画

について

・がんの教育の内容や進め

方について

第2回（予定）

〈報告〉

・今年度の取組について

〈協議〉

・今年度の計画・取組につ

いて

・次年度の計画・取組につ

いて

氏名	所属等
1	大学教授
2	
3	
4	三師会
5	
6	
7	がん患者会
8	
9	PTA
10	
11	教職員（保健主事、養護教諭、 栄養教諭）
12	
13	
14	保健部局

がんの教育に関する検討委員会

○授業等の事前検討

- ・指導演
- ・資料
- ・進め方

○授業後の検討

- ・評価等
- ・意見交換



氏名	所属等
1	大学教授
2	
3	医師
4	
5	教職員
6	
7	保健師
8	
9	指導主事
10	

がんの教育の目標

① がんについて関心を持ち、正しく理解し、適切な態度や行動をとることができるようにする。

- ・がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診について関心を持ち、正しい知識を身に付け、適切な対処について理解できるようにする。

② がん患者に対して正しく認識するとともに、いのちの大切さについて考える態度を育成する。

- ・がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々を通じて、自他の命の大切さを知り、自己のあり方や生き方を考える態度を育成する。

生徒アンケート【がんやがん患者についての関心、態度、考え方】

質問	事前 (%)		事後 (%)	
	思う	わからない	思う	わからない
a がんは身近な病気だと思う	67.6	16.2	88.9	5.6
b がんは怖い病気だと思う	97.3	0.0	94.4	2.8
c がん検診を受けられる年齢になったら、積極的に検診を受けようと思う	70.3	10.8	80.6	2.8
d がんを学ぶことで、いのちの大切さを考えられると思う	56.8	8.1	88.9	11.1
e がんを学ぶことでがん患者への理解が深まると思う	62.2	2.7	61.1	2.8
f がん患者やその家族は、がんと向き合い一日一日を大切に生活していると思う	78.4	0.0	88.9	11.1
g がん患者への差別や偏見のない社会の実現に努めようと思う	73.0	0.0	86.1	13.9
h 家族や身近な人とがんについて話し合おうと思う	18.9	46.0	50.0	25.0

(n=36)

生徒アンケート【がんやがん患者についての関心、態度、考え方】

質問	事前 (%)		事後 (%)	
	正しい	誤り	正しい	誤り
a がんは体の中で異常な細胞が増えてしまう病気である	37.9	32.4	86.1	5.6
b がんになる原因は1つだけである	2.7	83.8	0.0	94.4
c がんは誰もがかかると可能性のある病気である	97.3	0.0	97.2	0.0
d がんは日本人の死因の第3位である	35.1	40.6	19.5	72.2
e がんを予防するには、たばこを吸わないこと、バランスよく食事をする、適度な運動をすることなどの方法がある	81.1	5.4	97.2	0.0
f がんを予防するには、ワクチンを受けるなどの方法がある	29.7	27.0	47.2	25.0
g がんの早期発見には、検診が不可欠である	86.5	2.7	91.7	0.0
h 体の調子が悪くないので、定期的に検診を受けなくてもよい	2.7	86.5	0.0	97.2
i がんの治療には、手術、放射線、抗がん剤の方法がある	91.9	0.0	94.4	0.0
j がんの痛みは我慢するしかない	10.8	73.0	13.9	69.4
k がんになっても充実した生き方ができる	29.7	29.7	44.5	19.4

(n=36)

教職員等関係者アンケート【学習過程に関連する評価】

【回答者】
担任(1)、管理職(1)、教諭(1)、行政職(1)、保健師(4)、指導主事(3)、栄養教諭(1)

質問	思う	
	思う	思わない
a この内容は児童生徒にとって大切なことだと思う	13	0
b 児童生徒のこれからの生活に役に立つことがあると思う	13	0
c 児童生徒にとって新しい発見や驚きがある(あった)と思う	12	0
d 児童生徒が夢中になって勉強することができる(できた)と思う	11	1
e 児童生徒ががんについて理解を深めるための工夫ができた	10	3
f 児童生徒ががんについて考えるための工夫ができた	10	3

【関係者の主な感想等】

- 同世代のがん患者が題材と言うことで、健康な生活を送っている生徒にも身近に感じられ、命の尊さや日々の過ごし方等を考えさせる素晴らしい授業であった。
- これまで改めて考えることなかった「生命の大切さ」や「今生きている価値」について一生涯考え、まとめ、ワークシートに書き込む姿が印象的だった。
- ☆ がんの教育における内面へのアプローチは、道徳や学級活動で行うことが適していると思うので、**具体的な指導例が学年毎に示されると取り組みやすい。**
- ☆ がんが家族を亡くしたり、現在闘病生活を送っている家族がいるというような生徒がいた場合、その**把握と配慮**が必要になる。

群馬県立前橋女子高等学校の取組

時期	内容
10月29日	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講義 『がんを考える～前橋女子高編』 山王病院 奥仲 哲弥 副院長 ○ 意見交換 学校、参観者、講師、日本対がん協会など ○ 生徒新聞部による啓発 奥仲先生取材したことを新聞にまとめ、全校生徒や保護者に啓発
11月28日	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校保健委員会 テーマ「がんについて」 ・ 前女生のがんに対する意識調査結果より ・ 奥仲先生の講義から学んだこと(1年生) ・ 今からできるがん予防(2年生) ・ 協議

群馬県立前橋女子高等学校の取組

講義 『がんを考える～前橋女子高編』
講師 山王病院 奥仲 哲弥 副院長



日本対がん協会と連携して開催

生徒の感想から(抜粋)

- がんに対するイメージや考え方が変わった。
- 今まで、がんに対して誤った知識を持っていたことに気がついた。がんへの誤解がなくなってよかった。
- がんと聞くと、それだけで怖い病気だという印象を受けてきたが、今回の講演を聴いて、何の知識をもたず、怖い、怖いと騒ぐのは間違っていると感じることができた。
- 早期発見することで再発も防ぐことができると聞き、定期検診の大切さがわかった。
- がんは痛そうで、治りにくい病気というイメージがあったが、特別な人だけがなるものではないことがわかったし、手術や抗がん剤も患者のニーズに合わせた様々な種類があることを知り、極度に怖からなくて良いと思った。
- がんへの考え方が変わった。手術の仕方や治療法などが様々あることを知り、がんになっても治しても治して、また生活ができると思うと、未来が明るくなる気がする。
- 将来、もし自分や周りの人ががんになったらとしても、きちんと向き合おうと思った。

生徒の感想から(抜粋)

- 家族にも誤った認識があるので、今日の講演のことを家族で話し合いたい。
- 自分だけでなく、周りの人たちにも検診を受けるようにすすめてほしい。
- 将来、自分が家庭を持ったときに、自分の子どもにも病気や健康に関して教育できるようになれたらいい。
- 私は、将来薬学部で薬の勉強をしたいと考えている。抗がん剤の研究、改良に関わることができるかもしれない。
- 私は将来、再生医療に関する研究医になりたいので、がん患者の細胞について調べること、がんの発症過程や治療法について研究すれば、がんので亡くなる人を減らすことができると思う。
- 私の将来の夢に臨床検査技師が入っている。がんに関わる仕事ができるので、少しでも多くの人を救いたい。
- 私は将来、教育関係の職業を希望しているので、もし教員になれば、生徒にも伝えようと思う。

群馬県立前橋女子高等学校の取組



「MJHジャーナル」より
前橋女子高等学校新聞部



学校保健委員会 テーマ「がんについて」

【内容】

- 前女生のがんに対する意識調査結果より
- 奥仲先生の講義から学んだこと(1年生)
- 今からできるがん予防(2年生)
- 協議

生徒アンケート【がんやがん患者についての関心、態度、考え方】

質問	事前 (%)		事後 (%)	
	そう思う	思わない	そう思う	思わない
a がんは身近な病気だと思う	81.9	8.8	98.4	1.0
b がんは怖い病気だと思う	95.3	1.6	61.9	30.8
c がん検診を受けられる年齢になったら、積極的に検診を受けようと思う	72.5	5.3	94.9	1.0
d がんを学ぶことで、いのちの大切さを考えることができると思う	79.7	6.3	90.1	3.2
e がんを学ぶことでがん患者への理解が深まると思う	87.2	2.5	92.3	2.6
f がん患者やその家族は、がんと向き合い一日一日を大切に生活していると思う	75.6	2.2	85.6	1.6
g がん患者への差別や偏見のない社会の実現に努めようと思う	89.1	2.5	96.8	0.3
h 家族や身近な人とがんについて話し合おうと思う	51.3	17.8	80.8	5.1

(n=320)

教職員等関係者アンケート【学習過程に関連する評価】

[回答者]担任(7)、保健体育教諭(1)、養護教諭(2)、管理職(3)、保健主事(1)、副担任(4)、行政職(1)、保健師(9)、指導主事(2)、栄養教諭(1)、がん患者会(1)、看護士教員(1)、歯科医師(1) (人)

質問	そう思う	思わない
a この内容は児童生徒にとって大切なことだと思う	34	0
b 児童生徒のこれからの生活に役に立つことがあると思う	34	0
c 児童生徒にとって新しい発見や驚きがある(あった)と思う	34	0
d 児童生徒が夢中になって勉強することができ(できた)と思う	31	1
e 児童生徒ががんについて理解を深めるための工夫ができた	34	0
f 児童生徒ががんについて考えるための工夫ができた	34	0

[関係者の主な感想等]

- 現場の医師だから伝えられることがたくさんあり、最新の医療を知ること、がんに対する不安を減らせると思った。
- ☆教育現場で各年齢の理解力に応じたカリキュラムの検討が重要。
- ☆小学生も含め、対象を考慮して実施すれば、がんを理解することが可能と思われ、今後本事業は推進すべきものと思われる。
- ☆多様化する教育課程にいかに関心を持って位置付けるかが重要。保健学習を核として、特別活動や総合、道徳等に位置付けられるとよい。

生徒アンケート【がんやがん患者に対する知識・理解】

質問	事前 (%)		事後 (%)	
	正しい	分からない	正しい	分からない
a がんは体の中で異常な細胞が増えすぎてしまう病気で	71.3	6.3	90.7	6.4
b がんになる原因は1つだけである	0.9	91.6	1.0	99.0
c がんは誰もがかかると可能性のある病気である	96.6	0.6	97.1	2.6
d がんは日本人の死因の第3位である	29.1	49.4	18.3	75.3
e がんを予防するには、たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどの方法がある	93.4	1.3	96.8	1.3
f がんを予防するには、ワクチンを受けるなどの方法がある	36.6	31.6	80.8	11.9
g がんの早期発見には、検診が不可欠である	95.0	1.3	88.8	8.0
h 体の調子が悪くないので、定期的に検診を受けなくてもよい	4.4	92.8	2.9	94.9
i がんの治療には、手術、放射線、抗がん剤の方法がある	90.0	2.5	96.2	2.9
j がんの痛みは我慢するしかない	7.8	60.3	5.1	85.3
k がんになってからも充実した生き方ができる	70.6	4.7	90.4	1.9

(n=312)

その他の主な取組(指導資料の作成)



県保健予防課がん対策推進室作成
パンフレット

質問	子ども	保護者
がんは体の中で異常な細胞が増えすぎてしまう病気で	90.7	90.4
がんになる原因は1つだけである	0.9	1.0
がんは誰もがかかると可能性のある病気である	96.6	97.1
がんは日本人の死因の第3位である	29.1	18.3
がんを予防するには、たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどの方法がある	93.4	96.8
がんを予防するには、ワクチンを受けるなどの方法がある	36.6	80.8
がんの早期発見には、検診が不可欠である	95.0	88.8
体の調子が悪くないので、定期的に検診を受けなくてもよい	4.4	2.9
がんの治療には、手術、放射線、抗がん剤の方法がある	90.0	96.2
がんの痛みは我慢するしかない	7.8	5.1
がんになってからも充実した生き方ができる	70.6	90.4

成果

- (1)【生徒】がんに関する内容の理解が深まったり、認識の変化が見られた
身近にいるがんの人のことを言葉や文字にして表現したり、質問したりする生徒も…
- (2)【教職員等】がんの教育について考える機会となり、その必要性を感じたり、認識に変化が見られた
【保健師等関係者】学校での児童生徒や指導の様子を知ったり、がんの教育について考える機会となった
- (3)保健部局をはじめ関係機関との連携に広がりや深まりが見られた

今後に向けて

- (1)いつ、何を学ばせるか
 - ・それぞれの発達の段階で身に付けさせる内容は何か
 - ・保健学習を核に、道徳、特別活動、総合的な学習の時間との関連付けた指導
- (2)どのように指導するか
 - ・指導方法
 - ・指導資料
- (3)研修機会の充実
- (4)配慮について

終わりに



がん検診出陣ぐんまちゃん